

アイユゴー通信

Aiyugo
途上国の人と共に

第4号

編集長 岩見 和孝
監修 田中 正明

ボランティア支援の

感謝と報告

みなさまお変わりございませんか。みなさまのご理解とご協力のおかげで、本会が設立されて、はや2年半が経ちました。それ以来、事業地のラオス、タイ、ベトナムで現地の人たちと共に、生活環境や教育環境などの改善のための事業を進めてまいりました。

平成15年度の事業も順調に終え、去る5月9日の総会で、平成15年度事業報告、決算報告、そして平成16年度の事業計画、予算書などの承認を受けました。

簡単ではありますが、紙面を借りまして、みなさまにご報告いたします。

また、昨年の中心事業の一つでありますラオスでの活動について、2ページから特集しております。お読みいただいて、ご意見・ご感想などお聞かせいただけましたら、幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

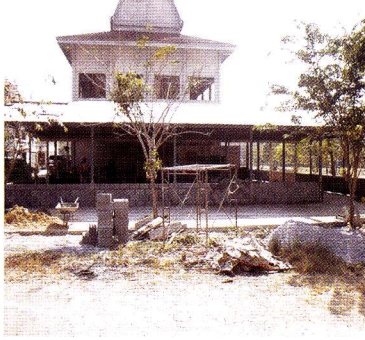
〔平成15年度事業報告〕

(1) 貧困と麻薬文化撲滅のための提言プロジェクト

① 職業訓練所センター建設

(立正佼成会助成)

(タイ・パタムタニ県バンクブーア地区
コクリエン寺内バンコクより西北50km)



麻薬中毒患者が病院で治療を受けた後、社会復帰を可能にする職業訓練所センターの建設を行った。また、ムエタイ倶楽部(和田武彦代表)から寄付を受け、机・いすを進呈しました。



(ムエタイ倶楽部からの机・いす)

- ② 事前調査 (ベトナム・フンタオ省
麻薬中毒、HIV感染、買春などに
関係する人たちの収容所の視察)
- (2) 教育支援プロジェクト
- ① 小学校建設

(ラオス・サバナケート県サイフ
オウホン地区フォンソンホン村)

小学校の再建設を行いました。教室は6室、うち3教室は日本郵政公社からの寄付金、2教室は日本のある寺からの寄付、1教室は本会によります。なお、12月にワークキャンプの参加者が小学校建設の協力を行いました。

(3) 農業地域開発プロジェクト

① 農業指導センター

(タイ・メホンソン県バンマバー郡
ワナルボ村)

(財)日本国際協力財団助成)
ビルマとの国境に近い村に農業指導センターを建設しました。雨期における遅延、自動車事故などで手間取り、少々遅れて完了しました。今後は有機栽培指導を全県的に行うためのパイロット事業と期待されています。

② 牛銀行開設

- i. ラオス・サバナケート県サイフ
オウホン地区フォンソンホン村
- ii. ベトナム・ラムドン県サラット
地区ラット村(コーホー族)

《牛銀行とは》

牛銀行開設の目的は、貧しい家庭に牛を供与し、子どもを学校に行かせることです。村人は子牛を成牛に育て、販売し、売却料金の半分をもらえるシステムです。売却料金の残りの半分は、村会が管理し、小学校の管理・維持などのために使います。

(4) 保健衛生に関する

事前調査

(タイ・チェンマイ県)
貧困と保険衛生の関連調査は来年2004年度に順延しました。

(5) 自主事業

(ワークキャンプ)

本会での事業現場で、村人と文

化・交流・技術の交換を通じたワークキャンプを実施しました。

① ラオス・フォンソンホン村

小学校の建設協力とホームステイを実施し、村人との交流を深めました。

② ベトナム・ラット村(コーホー族)

白鳳女子短大生を中心に少数民族の生計を支援するための牛銀行開設、植樹とラット村大学学生との交流ならびにホームステイを行いました。

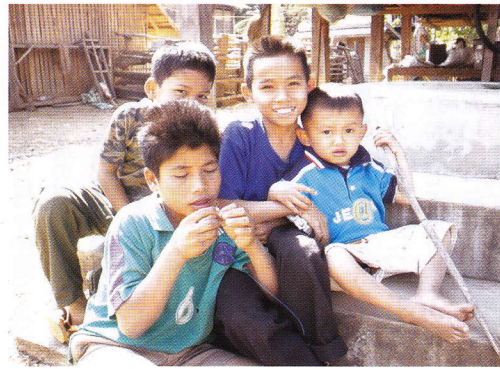
〔平成15年度収支決算報告〕

科目	決算
1. 会費収入	868,000
2. 寄付金収入	2,075,213
3. 助成金収入	3,386,000
4. 自主事業収入	879,634
5. 雑収入	0
6. 繰越金	1,350,029
収入合計(A)	8,558,876

科目	決算
1. 事業費	7,417,962
2. 管理費	932,450
支出合計(B)	8,350,412

収入合計(A)	8,558,876
支出合計(B)	8,350,412
残高 (A-B)	208,464

ラオス特集



(ラオスの子ども達)

ラオスとはどんな国?

ラオスはインドシナ半島の内陸にあります。ほとんど話題に上がらない国で、東にベトナム、西にメコン川をはさんでタイ、北に中国、南にカンボジアと、周囲を固められており、出口がない感じがします。

数十年前ほど前にフランスがラオスを植民地にし、ラオス人が反仏運動を防ぐために、「愚民政策」を実施しました。ラオス人に教育を受けさせない方策の影響で教育制度の確立がとて遅れています。十分な教育が施されないから、現在でも自然・社会・経済分野において人材がかなり不足しています。

面積は日本の本州とほぼ同じくらいですが、人口は約500万人です。この少ない人口の中から、医学、農業、経済などの分野で優秀な人材は、(ほんのわずかですが)海外で研修を受けさせます。残念なこと、海外滞在を終えた後、ほとんどの人がその専門分野に帰ることなく、つまり専門職からはなれて役所の行政の一般職についてしまいます。そのため各専門分野のレベルは停滞したままで、国全体としての発展を望むには、かなり困難な状況と考えられます。

今、日本の外務省が政府開発援助として、ラオスの国への支援の第一重要項目に挙げて、力を注いでいる事業は、「人造り」です。とにかくラオスにはあらゆる分野において人材が不足しています。

ラオス・フォンソンホン村

そこで、平成15年度、本会は、中南部のサバナケート県サイフォンソン地区フォンソン村で、教育環境の整備と、人材育成の基礎作りのために、小学校建設に取り組みました。

サバナケート県の教育局長ならびに村長から小学校を建設してほしいという依頼がアイユーゴーラオス代表のカツファ氏を通じて事務局に届きました。視察してみると、

小学校は崩壊寸前で放置され、子供たちは村の寺で、すし詰め状態で合同授業を受けていました。

村の人たちと話し合い、5クラス(1学年1クラス)が別々に授業を行えるように、そして職員室も加えて6部屋を新築することになりました。村人たちが主になって設計し、工事計画を立て、グループを決めて、交代で工事に参加することになりました。

日本人から見るとゆつくりしたペースであっても、村人たちは本当に小学校を建てたいと願い、実現してくれました。



(新築された校舎でお祝い)

調査報告(抄)

アイユーゴー副代表理事

中西 省吾

ラオス・フォンソンホン村について

人口：560人、110世帯
職業：人口99%が農民

(他先生等)

・民族：ラオ族
・治安：犯罪無し、物なくならない
・困っている点：

・学校が無い(教育環境が悪い)
・井戸が遠い(村より1km)
・道が悪い(地道 15km、内特に悪路4kmがひどい)

・就労：18〜35才の若者300名は村で農業、15〜20名は国内で工場、特に女性はミシンを使う仕事、また、タイに30〜40名が建設関連の仕事で出稼ぎ
・一日の賃金：

・村内の稲刈り1155円
・タイで出稼ぎ2600円
・燃料：

・トラクター(耕運機)ディーゼル
・軽油1リッター147円(高値)
・収入：米1家族 平均2000円
・平均1家族年104200円

小学校建設について

・リーダー：プーカオ村長
・建築リーダー：クケオ氏(過去に

・エンチャンで建設会社に勤務)
・建築指導について

・いろいろな教えが欲しい
・建設協力は稲刈りが早く終わった人から順次行う。

・日本人の訪問に期待すること：親類のような関係になつて欲しい。

・交流文化事業：食文化と踊り

私が村と小学校に伝えたこと

「子供は地球の宝であり、国の、村の宝であります。アイユーゴーは学校作りにより、子供たちが安心して勉強でき、すばらしい人となるように支援したい。又、交流を通じて、互いに学びあひましよう。」
村長に「どんな村になると良いと思いますか?」と聞いてみました。

「今の私(私たち)には考えつかないです。その夢を考えることが出来るように子供たちに教育を与えてやりたいのです。教育こそが村を豊かにする始まりです。今まで村人にいろいろな共同で行う提案を出してみたが、なかなか理解してくれませんでした。しかし、学校を作ると言うことはすぐ理解してくれました。このことは、みんな教育は大事だと思っている証しだと思います。」

私が村人から学んだこと

このことを聴き、今の日本には失われている重要な事を改めて感じました。食べる事が、やっとの生活の中で教育の重要性を実行する村人のすこさを学んだ旅でした。

《ワークキャンプ報告》

未来へ架けよう！心の橋

ラオス・フォンソンホン村

アイユーゴーでは、昨年12月19日～24日の間に、小学校の建設協力と牛銀行の開設のため田中団長によるワークキャンプを開催しました。牛銀行開設ではワークキャンプ参加者の方々の協力を得て、牛を購入できました。ありがとうございました。



(村人に供与された子牛)

ワークキャンプに参加して

アイユーゴー 顧問

ワークキャンプ団長

田中 正明

一行7名の団長を仰せつかり責任の重さを感じながらの参加となった。病気の方も主治医からOKが出て安心して出発できた。

7名の内訳は70代、60代、50代、30代、20代の各1名、10代

日本から37時間

関空を深夜1時に出発、早朝バンコクに到着。国内線に乗り換え、ウボンタニへ。ウボンタニより車で約300kmを2時間半かけて、初日の宿泊地ムクダハム市に到着した。ホテルにチェックインし、寝不足と疲れで夕食もそこにダウン。

翌朝、風の強い中フェリーに乗り船し、メコン川を渡り、ラオス国サバナゲート市に入国した。車で約1時間半悪路を走り、目的の地フォンソンホン村に無事到着した。日本を19日の深夜出発してから約37時間目だった。



(多彩なメンバーがいよいよ出発)

いよいよ村へ

村の入口で村人総出の出迎えを受けた。その歓迎ぶりには叱咤した。歓迎式、少女達の舞踊に続いて、通訳を介して自己紹介があった。



(村人総出の出迎えにびっくり)

その後、小学校建設現場視察、作業行程の打ち合わせホームステイ先の割当等忙しい1日だった。

工事現場にて

翌朝早く建設現場に集合、作業進行状況確認し作業を開始した。7名は鉄筋加工、ブロック積み、セメント運搬に分かれ従事した。

工事が大分遅れているようなので、工程を守るように責任者に指導するも、のんびりしたもので一向に進める気配なし、先が思いやられる。22日の午前中は昨日の作業を引き続き従事し、午後は親善サッカー試合が行われ、我が方からも若手3名が参加した。

作業の合間を見て村の老人と手振り足まねで雑談したが、フランスの植民地政策でまともに教育を受けていないのか、文字を読める人が10人中1人位であった。若い人はそれに引き換え教育には非常に熱心であった。

村人との交流

夜は村民の主だった人が村長宅に集合、我々の為に、晩餐会を開催してくれた。始めに村の長老(100歳がラオス式の厄除祈禱を私達一人一人に祈っていた。祈禱終了後食事となり夜遅くまで懇親会が続いた。



(白い帽子がトレードマークの団長)

23日いよいよお別れの日となった。おみやげ、記念品の贈呈があり、新田代表と村長による牛銀行開設の調印式を終えて、屋前に名残を惜しみつつ、村を後にした。

初めて訪問するラオスなので、知

識はまったく無かったが、「百聞は一見にしかず」の古語の通りの結果として非常に勉強になった。

特にホームステイで一般家庭の生活の中に入り、寝食を共にした体験は二日間と短い時間であったが、貴重な事であった。

現地は静かな過疎地の農村で、田舎特有の人情味あふれるものをひしひしと感じた。50年、いや60年前の日本の農村を思い出した。



(無事完成した小学校)

小学校建設工事は、村人の協力で行進しているが、3月完成が難しいのではないかと懸念している。3月中に完成するという責任者の言葉を信じて期待することとした。もう一度訪ねますかと問いければ、私はすぐに行きますと答えます。

〔平成16年度事業計画〕**(1) 貧困と麻薬文化撲滅のための代替事業****① 職業訓練所センター建設**

(ベトナム・フンタオ省)

麻薬中毒患者のための職業訓練所センターの建設。

(2) 教育支援事業**① 小学校屋根建設**

(ラオス・ナチック村)

小学校の屋根建設。3教室の屋根の資材費を協力支援。

② 小学校への教育資材供与

(ラオス・フオンソンホン村)

昨年度完成した小学校に机や椅子を供与。

(3) 農業地域開発事業**① 農業指導時の宿泊施設建設**

(タイ・ワナルボ村)

農業センター有機農法を学ぶ遠隔地の村人のため。

② タイ北部における少数民族カレン族の住民参加型農村開発

(タイ・ムアンパン村)

山岳地帯の少数民族自らが参加して有機農法を取り入れ、経済的自立と環境保全を図るための農村開発の支援。

③ 井戸建設ならびにパイプライン設置工事によるウォーターシステム設置

(ラオス・フオンソンホン村)

生活用水確保のための井戸と

集積タンクならびにパイプラインの設置。水の安定供給と生活改善支援を行う。

(4) 日本の国際協力プロジェクトへのアドバイザーとしての参画

(タイ・パトンガム村)

日本青年会議所東広島青年会議所主催のグローバル・トレーニング事業(集会所建設)にコーディネートとして参画。

(5) 保健衛生に関する事前調査

(タイ・チェンマイ県)

少数民族の貧困と保健衛生に関連する調査。

(6) 自主事業**(ワークキャンプ)**

本会での事業現場での村人と文化・技術交流を行う。

① 未来へ架けよう!心の橋

《タイ》メホン県バンマパー郡
日時 8月6日(金)～11日(水)
内容 少数民族の村でホームステイをしながら、有機農法と子供の教育に関する活動を行う。現地の小中学校で実際に教壇に立ち、算数、体育、音楽、英語などの授業を行い、また農法についての実践体験を行う。

費用 145,000円

募集人数 10名位

対象 20歳以上で、教育や有機農法に興味のある方。

申込締め切り 7月15日(木)

② 未来へ架けよう!心の橋

《ベトナム》ラムドン県ラット地区
日時 8月22日(日)～27日(金)

内容 ベトナムのダラット大学の学生たちとの交流を通して「ボランティアとは」を考えます。学生たちと一緒に少数民族(コーホー族)の村でホームステイをしながら、現地に必要な活動について議論しましょう。

費用 145,000円

募集人数 15名位

対象 20歳以上で積極的に現地の人とコミュニケーションを取れる方。

申込締め切り 7月20日(火)

③ 未来へ架けよう!心の橋

《ラオス》サバナケート県
サイフォウホン地区
日時 11月予定

内容 ウォーターシステムの設置への協力と交流。

「お問い合わせ・申し込み方法」事務局まで電話・FAX・メールにてお知らせ下さい。

なお、会員の皆様の参加費は、会員割引価格となります。

お知らせ**(1) 関西NGO協議会**

私達アイユーゴーは各種団体とのネットワーク作りを目的に、関西NGO協議会の会員に加入しています。当協議会の催しなどに関心のある方は、eメールで転送します。ご希望の方はメールアドレスをお知らせください。

(2) ホームページのご案内

アイユーゴーのホームページを開設しています。(アドレスは下欄を参照ください。)

ボランティア活動に興味のある方には是非ご紹介下さい。

仕事内容は、折込み、宛名書き、事務所の掃除、ワークキャンプの準備などさまざまあります。

(ホームページ作成は、当会正会員の静岡県在住の西原明美様に協力をお願いしております。とても素晴らしいホームページをありがとうございます。)

事務局ではエアコンもなく、暑さ・寒さを我慢して新田代表らと、今年度の目標に沿って頑張っております。

編集後記

昨年度のワークキャンプではSARSなどの問題もあり当初の予定より時期を遅らせる事となりました。参加希望の方には大変迷惑をおかけしました。

アイユーゴー通信編集委員として、皆様に読みやすく、親しみのある内容になるように努力しております。ご高覧のうえ、皆様の忌憚り無いご意見・ご感想お寄せ下さい。

‘途上国の人と共に’

申し込み及び問い合わせ先:アイユーゴー事務局

住所: 590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内1-10-18

電話: 0724-52-8340 FAX: 0724-52-8340

E-mail: nitta-skj@rinku.zaq.ne.jp

090-9176-7053(新田携帯)

ホームページ: <http://aiyugo.fc2web.com>